

中学校職業家庭科教材に対する生徒の関心とその指導

金 田 ト シ 子

I. 研究目的

中学校の職業家庭科においてその基本・中核をなすと考えられる男女共通教材については、今日もなお、いろいろな批判が加えられている。その教材について、どのような進路をとる生徒にとっても必要な教育目的があるとするならば、それを達成させるために男女をとわず学習目標をよく理解させて学習活動に積極的に参加させることが望ましい。しかし、実際には男女の別や環境の差があるために、望まれるような学習意欲をもたらされることはむづかしい。この研究は、そのような困難をひきおこす諸条件の実態を分析し、より一層学習効果を高めるための対策や措置について考案する基礎を究明しようとするものである。

II. 研究方法

研究はまず実態調査から出発することにした。予備調査としての試みであって、調査の対象として本校中学二年生の男51名、女52名を選定した。今までのカリキュラム、学習の経過からみて適当と思われたからである。調査方法としては、質問紙によって7月24日に実施した。調査項目は、一応教材は日常の家庭生活の諸事と密接に関係があると仮定し、それらへの関心態度を相互に関係づけて考察することを考えて次のような質問紙を設定した。

質 問 紙 (家庭、家族の状況の項目は省略)

1. 下記の1~10までは家庭生活の衣、食、住、家計交際、などの家事について、色々な考え方があります。現在のあなたの考えや、気持ちに、ぴったり合っているものに○印をいくつでもつけて下さい。
 - (1) 父母の責任だからまかしておいた方がよい。
 - (2) いろいろな改善を考えたり手を加えたりするのは面白い。
 - (3) 若いうちは学校の勉強や、仕事の方が大切だ。
 - (4) 大人のことは難かしくてまだ見当がつかない。

- (5) 問題があればお互にみんなで話し合いたい。
 - (6) 常識、世間なみのことは早くできる方がよい。
 - (7) 新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、にでてくる問題に気をつける。
 - (8) 子供の立場では意見や、手を出すのは、さしひかえた方がよい。
 - (9) 独立のため自己の修養や社会の勉強の方が大切だ。
 - (10) 家族みんなで協力し、責任をもつ方がよい。
2. あなたの家では、ふだん着類の衣料はどうしていますか。どれかに○をつけて下さい。
 - (1) 大部分家で仕立てる。
 - (2) 注文して(人に頼んで)仕立ててもらおう。
 - (3) 大部分既製品を買っている。
 - (4) よくわからない。
 3. あなたの家の食事の献立はどういうふうにしてきめますか。どれかに○印をつけて下さい。
 - (1) 母が(または誰れかが)一人できめている。
 - (2) 家族で話し合ってきめている。
 - (3) ラジオ、書物、をもとにしている。
 - (4) よくわからない。
 4. 住居の状態について、あなたがいま下記のことの中で改善してみたいと思うことがあったら、○印をいくつでもつけて下さい。
 - (1) 部屋のつかい方。
 - (2) 照明(ひかり)のとり方。
 - (3) 家の中の装飾。
 - (4) 家具の合理化、工夫。
 - (5) 庭のつかい方。
 - (6) 品物、道具の配置や整とん。
 5. 機械や器具で、ちょっとした故障がわかったり(直せたり)したいものにはどんなものがありますか、○印をつけて下さい。

(1) ラジオ	(2) テレビ
(3) (電)蓄音機	(4) 電気洗濯機
(5) 冷蔵庫	(6) ミシン
(7) アイロン	(8) 電気コンロ
(9) トースター	(10) 石油コンロ
(11) ミキサー	(12) 扇風機
(13) 自動車・オートバイ	(14) 時計

- (15) ポンプ (16) はかり
 (17) 幼児のおもちゃ
6. あなたがいま、ある程度責任をもって行っている家事にはどんなものがありますか。
 ○印をつけて下さい。
- (1) 炊事(料理)の手伝い。
 (2) 食品の買出し。
 (3) 掃除の手伝い。
 (4) 寝具のせいとん。
 (5) 洗濯の手伝い。
 (6) 日常の衣服の手入れ。
 (7) 来客や電話の応待, 取次ぎ。
 (8) 幼い弟妹の世話。
 (9) 庭の草花, 家畜の世話。
 (10) 店番。
 (11) 食事の準備, 給仕, 片づけ。

Ⅲ. 研究経過

回答集計に当って、先ず職業家庭科に対する態度の在り方に大きく響くものとして、生徒が自分の日常の家庭生活について積極的な考えをもっているものと消極的な考えをもっているものを区別した。区別の方法としては、質問項目(1)における積極的、消極的な考えの選択肢5項目ずつの何れかに多く回答を記入したかによって区別した。そしてその関心、態度が形成される要因を探求するために、男女の比較、家族状況を考慮し、質問項目(2)以下の衣服、食物、住居

表2

項 目		人 員		
		男 51	女 52	合計 103
-	(1) 父母の責任だからまかしておいた方がよい。	13.7	7.7	10.7
	(3) 若いうちは学校の勉強や仕事の方が大切だ。	41.2	36.6	38.8
	(4) 大人のことは難しくてまだ見当がつかない。	7.85	13.5	10.7
-	(8) 子供の立場では意見や、手を出すのはさしひかえた方がよい。	3.92	5.75	4.85
	(9) 独立のため自己の修養や社会の勉強の方が大切だ。	9.80	9.60	9.7
+	(2) いろいろな改善を考えたり手を加えたりするのは面白い。	68.5	51.9	60.1
	(5) 問題があればお互いにみんなで話し合いたい。	54.6	71.0	63.0
	(6) 常識、世間なみのことは早くできる方がよい。	41.0	26.9	34.0
	(7) 新聞、雑誌、ラジオ、テレビにでてくる問題に気をつける。	29.4	34.6	32.0
	(10) 家族みんなで協力し、責任をもつ方が大切だ。	62.5	75.0	69.0

関係の生活条件、機械器具の扱いと家事労働等についての興味等とを関連させて考察してみた。

Ⅳ. 研究結果

1. 日常生活の在り方に対する総合的な関心を質問項目の(1)に対する記入率からみると表1の通り、積極的なものは46.6%と多いのに比べて、消極的なものは29.1%と少い。男女別には男子の方が女子よりも幾分積極的であるようである。

表1

人 数		男 女 計		
		51	52	103
(-)	(1)(3)(4)(8)(9)の中 だけへの記入者	実数 13	17	30
		% 25.5	32.7	29.1
(+))	(2)(5)(6)(7)(10)の中 だけへの記入者	実数 26	22	48
		% 51.0	43.0	46.6
(-+)	以上の-,+,に 重複のあるもの	実数 12	13	25
		% 23.5	24.3	24.2

注 -印は消極的な考えのもの。
 +印は積極的な考えのもの。
 -+印は消、積が明らかでないもの。

このような積極的な傾向があるにしても、その考え方には数多くの類型表2でも明らかなよ

(数字は%を表わす)

うにみられ、男女によっても差異がある。積極的な男子においては(2)「いろいろな改善を考えたり、手を加えたりするのは面白い」(10)「家族みんなで協力し責任をもつ方がよい」。女子においては、(5)「問題があればお互にみんなで話し合いたい」、(10)「家族みんなで協力し責任をもつ方がよい」、以上のような考えのものが60~70%位あることは、家族の構成員のよい一員になるうとの生活態度が積極的であることを示している。これが職業家庭科教材への関心に通ずるとすれば望ましいことである。

消極的な男女の理由は、(3)「若いうちは、他の勉強や仕事の方が大切で」(1)「父母の責任だ」(4)「大人のことは難しい」という考え方のようである。

積極的な群の記入番号の組合せをみると、(2)(5)(10)、(5)(10)、(2)(5)(7)(10)、(2)(5)(6)(7)(10)、の順になる。消極的な群では、(1)(3)(4)が目立って多い。

表3

(数字は%を表わす)

人 員	-			+			-+	合 計		
	男	女	計	男	女	計		男	女	計
項 目	13	17	30	26	22	48	省 略	51	52	103
(1) 大部分家で仕立てる。	92.5	35.2	63.4	15.4	41.0	27.0		32.4	36.5	34.9
(2) 注文して(人に頼んで)仕立ててもらふ。	38.5	41.1	40.0	23.0	45.5	33.2		30.6	46.0	38.8
(3) 大部分既製品を買っている。	30.8	5.99	16.6	38.4	9.1	25.0		34.4	9.60	22.3

3. 食生活 における献立(質問項目の3)については今までは家のだれか1人(母、祖母、女中、姉)がきめていた場合が多いであろうが第4表のように「母1人がきめる」のは3分の1に達せず(2)「家のものが話し合って」が約半数以上で、(3)「ラジオ、書物を参考にする」は5.8%にすぎない。食生活の面で、家庭で話し

2. 衣生活面 (質問項目の2)を関連させてみると消極的な群の男子の家では92.5%もふだん着類の衣料を家で作っているのにくらべて積極的な群の男子では、わずかに15.4%というのが目立つが、消極的な考えの男子の家庭に姉がいて従事しているということも影響していると思われる。女子の方では積極的、消極的のいずれをとわずふだん着であっても(2)「注文」または、(1)「家で作る」というのが多い。男子の衣料は(3)「既製品」で占められるためか女子にくらべて記入率が高いようである。(表3)

洋式化してその程度は低くなったにせよ、衣料の製作、修理等に家族または生徒自身も直接参加する度合が家庭生活ないし家庭科教材に対する関心態度にどのように影響するであろう。例えば、自家製作が多ければ却って「注文」、「既製品」に必要とされる選択のための知識よりも、技術が注目されるであろう。

合うことが多くなり、またラジオや書物にも注意するようになって、これらの機縁が男子にも食生活への積極的な関心が高まれば望ましい。

(表4)

日頃手伝い馴れたためか女子はともかく、男子にこの傾向をわずかにみとめることができる。

表4

(数字は%を表わす)

人 員	-			+			-+	合 計		
	男	女	計	男	女	計		男	女	計
項 目	13	17	30	26	22	48	省 略	51	52	103
(1) 母が(または誰かが)一人できめる。	38.5	23.5	30.0	34.6	27.2	31.2		36.2	23.0	30.0
(2) 家族で話し合ってきめている。	23.1	76.5	53.0	34.6	45.5	39.6		32.4	63.5	48.5
(3) ラジオ、書物をもとにしている。	7.7	0	3.3	7.7	9.1	8.3		7.7	3.8	5.8

共 同 研 究

表5

(数字は%を表わす)

項 目	-			+			-+	合 計		
	男	女	計	男	女	計		男	女	計
	13	17	30	26	22	48		51	52	103
(1) 部屋の使い方	23.1	23.5	23.3	34.6	27.2	31.2	省 略	38.6	21.1	25.2
(2) 照明(ひかり)のとり方	23.1	5.9	13.3	26.9	13.6	20.8		19.2	7.7	13.6
(3) 家の中の装飾	23.1	23.5	23.3	7.7	36.4	20.8		13.7	30.7	22.3
(4) 家具の合理化工夫	15.4	17.6	16.6	11.5	18.4	14.5		15.5	13.4	14.5
(5) 庭の使い方	46.1	41.1	43.2	42.2	45.5	43.6		38.2	40.4	39.8
(6) 品物、道具の配置や整頓	61.5	29.4	43.2	26.9	18.4	22.8		32.4	25.0	29.1

表6

(数字は%を表わす)

項 目	-			+			-+	合 計		
	男	女	計	男	女	計		男	女	計
	13	17	30	26	22	48		51	52	103
(1) ラ ジ オ	53.9	35.2	43.2	50.0	31.8	41.6	省 略	51.5	32.6	42.6
(2) テ レ ビ	15.4	11.7	13.3	11.5	13.6	12.5		15.5	11.5	13.6
(3) (電)蓄音機	7.7	11.7	10.0	15.4	9.1	12.5		9.6	7.9	12.6
(4) 電気洗濯機	7.7	11.7	10.0	11.5	0	6.25		11.5	9.6	10.7
(5) 冷蔵庫	0	5.9	3.3	3.8	4.6	4.2		3.8	7.7	5.8
(6) ミ シ ン	7.7	76.5	46.5	26.9	82.0	52.0		15.5	78.5	47.5
(7) ア イ ロ ン	38.5	29.4	33.3	23.0	22.8	22.8		32.9	25.0	24.2
(8) 電気コンロ	15.4	17.6	16.6	19.2	0	10.4		17.2	5.8	11.6
(9) トースター	7.7	11.7	9.95	7.65	0	4.16		7.65	5.8	68.0
(10) 石油コンロ	30.8	11.7	20.0	11.5	4.6	8.3		13.7	5.7	9.7
(11) ミキサー	7.7	23.5	16.6	11.5	4.6	8.3		9.55	7.9	12.6
(12) 扇風機	7.7	35.2	23.3	11.5	13.6	12.5		15.5	21.1	18.5
(13) 自転車, オートバイ	61.5	5.9	30.0	57.5	22.8	41.6		32.4	11.5	22.3
(14) 時 計	23.1	23.5	23.3	19.2	27.2	22.8		19.2	23.0	21.3
(15) ポ ン プ	23.1	0	10.0	11.5	13.6	12.5		13.7	5.8	9.7
(16) は か り	7.7	0	3.3	19.2	9.1	14.5		11.5	7.7	9.7
(17) 幼児のおもちゃ	53.9	29.5	40.0	53.4	41.0	47.8		47.7	36.5	42.6

4. 住生活の面では(5)「庭の改善」ということが男女をとわず考えられているようである。市内ではあまり庭が広くないためであるかもしれない。消極的な男子が(6)「品物、道具の配置と整頓」に61.5%の記入率があるのに対し、積極的な男子では26.9%であるから他の面に関心が向けば望ましいがさほどでもないのは一考すべきであろう。(3)「家の中の装飾」また(4)「家具の合理化、工夫」でも男子はあまり興味がないようである。しかし女子は異なる。なお女子には(2)照明のようにむずかしいものには興味がないようであるが(1)「部屋の使い方」においても女子はあまり考慮しないているのは注目すべきことである。(表5)

5. 家庭内の機械器具では、女子よりも男子に関心があるようである。これは科学的な知識や工作的技術との関連を考えると当然のことかもしれないが、女子でも簡単な機械器具は自分

で直してみたいという考え方をもったことは家庭の文化的進歩、生活改善の現れであると思うが、コンロ、トースター、ポンプ、洗濯機のように女子に深い関係のあるものでも一見複雑な機械のこととなると女子は男子に劣っているようである。自分の日常使うものは男子より関心をもってほしいものである。しかしラジオ、玩具のように自分たちの手近にあるものは男女をとわず興味があるようである。女子のミシンと男子の自転車は同じような対象になるらしい。(表6)

6. 家事労働および手伝いでは、掃除、寝具のかたづけ等に従事するのは通常一般の通りであるが、衣服の手入れでは女子の記入がないのは不思議である。しかし第7表を通じて女子で家庭生活に対する関心態度の積極的な群に買出掃除などを除いた諸事に従事参加するものが多い傾向があるようである。(表7)

表7

(数字は%を表わす)

項目	-			+			-+	合計		
	人 員			人 員			略	人 員		
	男	女	計	男	女	計		男	女	計
	13	17	30	26	22	48		51	52	103
(1) 炊事(料理)の手伝い	15.4	23.5	20.0	7.65	54.5	29.2	省 略	9.6	42.2	26.2
(2) 食品の買出し	23.1	47.0	36.6	23.0	18.4	20.8		32.9	32.6	28.1
(3) 掃除の手伝い	46.1	41.2	43.2	50.0	77.3	62.5		46.0	78.5	63.0
(4) 寝具の整頓	69.4	47.0	56.6	42.2	50.0	46.0		38.2	44.1	41.6
(5) 洗濯の手伝い	15.4	29.4	23.3	3.8	41.0	20.8		7.7	34.6	21.3
(6) 日常の衣服の手入れ	30.8	0	13.3	3.8	0	2.08		9.6	0	48.5
(7) 来客や電話の応待取次ぎ	0	11.7	6.7	7.7	27.2	16.6		3.8	17.5	10.7
(8) 幼い弟妹の世話	15.4	11.7	13.3	3.8	13.6	8.30		57.1	11.5	8.7
(9) 庭の草花家畜の世話	61.5	0	26.6	26.9	31.8	29.2		36.3	17.5	27.2
(10) 店番	7.7	5.9	6.7	23.0	13.6	18.7		19.2	9.6	24.2
(11) 食事の準備給仕片づけ	7.7	58.9	36.6	15.4	54.5	33.2		15.5	50.0	33.0

7. 学業成績の中で職業家庭科の1学年の総合評価を「5~4」の群、「3」だけの群「1~2」の群という3段階にわけてみた。積極的な(+)の群の女子は成績が良い、男子ではだいたい

「3」の組に半数が属するようである。他の理科社会科と比較してみたがどの群もあまり明らかな変化がみられないようであった。(表8)

表8

		-			+			-+	合 計		
評 語	人 員	男	女	計	男	女	計	省 略	男	女	計
			13	17	30	26	22		48	51	52
5 ~ 4		23.1	29.4	26.6	26.9	41.0	33.2		32.9	30.7	27.2
3		53.9	35.2	43.2	53.7	27.2	41.6		57.2	34.6	46.5
2 ~ 1		23.1	35.2	30.0	19.2	31.8	25.0		17.2	34.6	26.2

V. 要 約

以上のような結果が考察されたのであるが、ことに家庭科教材に関連をもち、あるいは直結するような日常家庭生活の諸事の項目への関心を注目したのであって、男子、女子の差異は従来の伝統や習慣におけるようには表われていない。衣、食、住、家事労働等の諸項目について具体的にみても積極的、消極的な関心態度もはっきり区別されない。

また、部分的ではあるが教材に結びつけて考えると関心では家庭環境ないし生活条件と関係する傾向が考えられたが、1年生時代の家業成績（職家、社会、理科）にはあまり関係しないようである。ただし、職業家庭科のみでは総体的にいうと積極的態度の男子よりも女子におい

て成績がよいようである。

さて以上の結果は今後の研究のための基礎とする意味においてもこの調査で設定した項目内容が今までのカリキュラムにおける共通教材においてもつ位置を検討し、このような積極的、消極的な考え方が形成された環境条件の生活要因との関係を明らかにすることを課題として残している。それにしても調査対象が本校だけの103名では質量ともに不安である。一応、以上の考察、反省から補充修正を加えて、本格的実態調査を行うと共に、今後さらに男女共通教材を中心とする各種の問題に発展させて研究を進めてゆきたいと思う。

なお最後に、この研究を進めるにあたっては学部の諸先生方の指導と助言をうけたことを付記する。